

守山企業景況調査報告書

(第 61 回)

令和 6 年 10 月～令和 6 年 12 月期 実 績

令和 7 年 1 月～令和 6 年 3 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和6年10月～令和6年12月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業60社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	15	18
製造業	14	10	14
建設業	12	12	12
サービス業	20	16	20
卸売業	6	6	6
合計	70	59	84.3%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和6年10月～令和6年12月、見通しを令和7年1月～令和7年3月とし、調査時点は令和7年1月25日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和6年10月～令和6年12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和6年10月～12月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの全ての指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲11.9で前回調査の▲25.6から13.7ポイント上昇した。業種別では、小売業▲13.3（前回調査比+6.7）、製造業▲50.0（前回調査比▲7.1）、建設業▲25.0（前回調査比+11.4）、サービス業6.3（前回調査比+23.0）、卸売業33.3（前回調査比33.3）と製造業以外は上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲5.4である。

<売上高>

売上高DIは15.3で前回調査の▲18.6から33.9ポイント上昇した。業種別では、小売業▲6.7（前回調査比+13.3）、製造業▲20.0（前回調査比▲5.7）、建設業25.0（前回調査比+43.2）、サービス業25.0（前回調査比+41.7）、卸売業83.3（前回調査比116.7）であり、製造業を除く各業種で上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲8.5である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲16.9で前回調査の▲23.3から6.3ポイント上昇した。業種別では、小売業▲33.3（前回調査比▲3.3）、製造業▲30.0（前回調査比+12.9）、建設業▲16.7（前回調査比+10.6）、サービス業▲12.5（前回調査比▲4.2）、卸売業33.3（前回調査比+33.3）で製造業、建設業、卸売業で上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲22.4である。

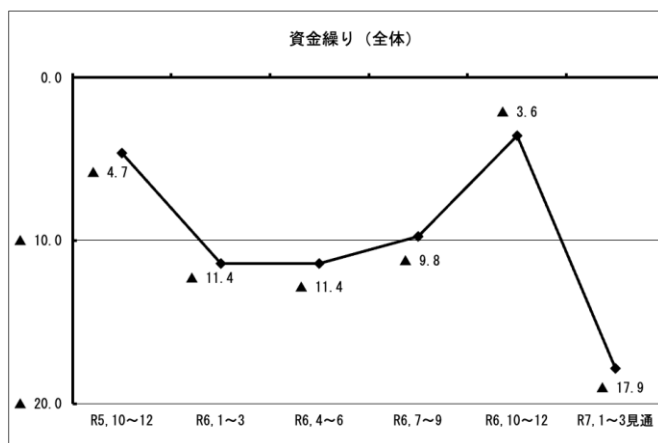
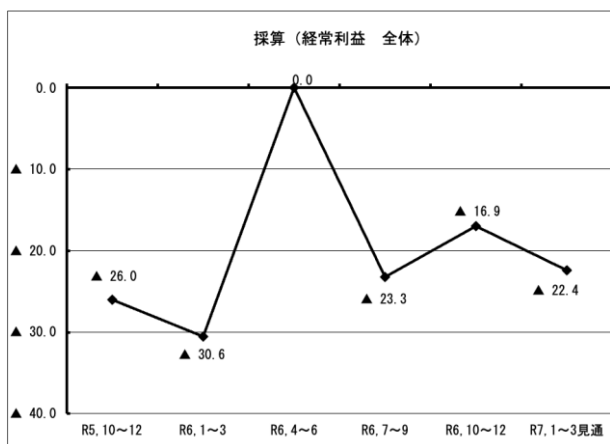
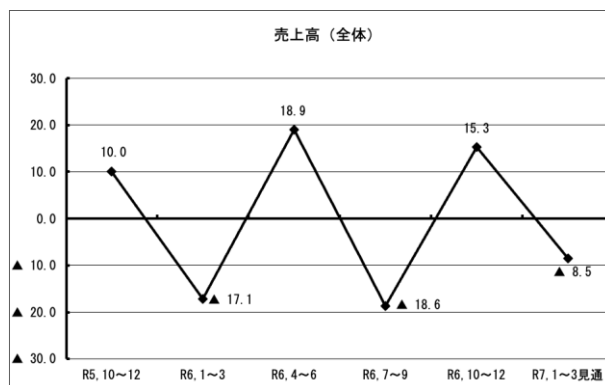
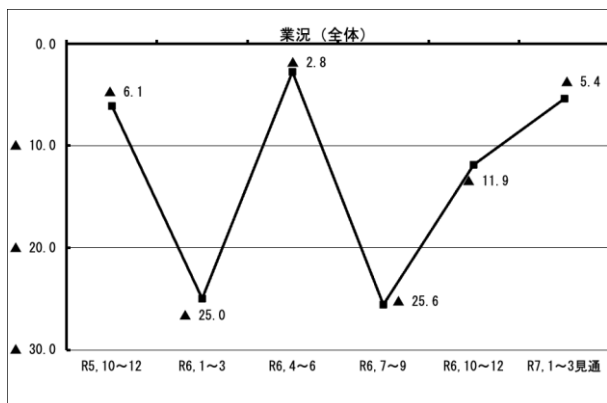
<資金繰り>

資金繰りDIは▲3.6で前回調査の▲9.8から6.2ポイント上昇した。業種別では小売業▲33.3（前回調査比▲13.3）、製造業0.0（前回調査比▲14.3）、建設業8.3（前回調査比+38.3）、サービス業0.0（前回調査比+9.1）、卸売業16.7（前回調査比▲16.6）で建設業、サービス業で上昇した。1月～3月期見通しは全体で▲17.9である。

円安、原材料、・エネルギー価格・労務費等コスト増や価格転嫁、人手不足などの経営への影響についての意見

- ・コストは上昇しているが価格転嫁ができていない。
- ・エネルギーコストがGOP（粗利益）を圧迫している。
- ・新卒、中途現場職の採用に苦労している。

- ・ 材料価格、労務費等の上昇で経営状況が悪化している。
- ・ 従業員の高齢化に伴う技術者の採用が困難。
- ・ 全ての経費が上がっているが商品の値上げをすると売上がはっきり落ちる。
- ・ 異常なまでの経費の増加で前年との比較ができないように思う。



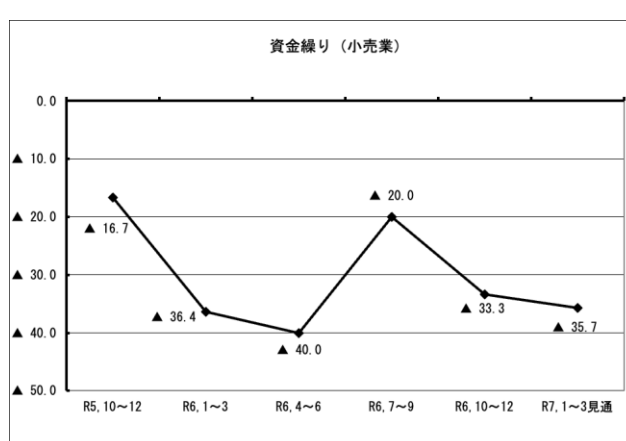
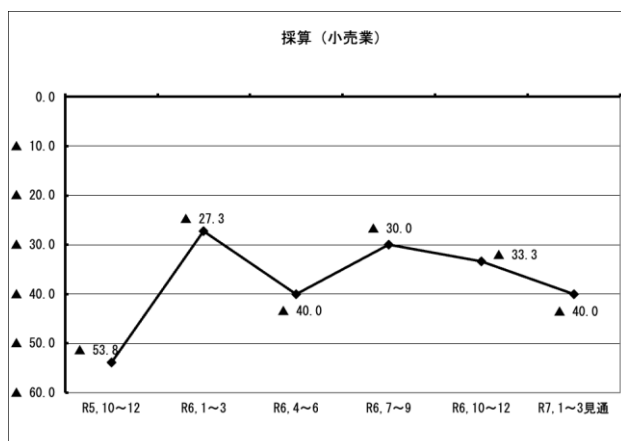
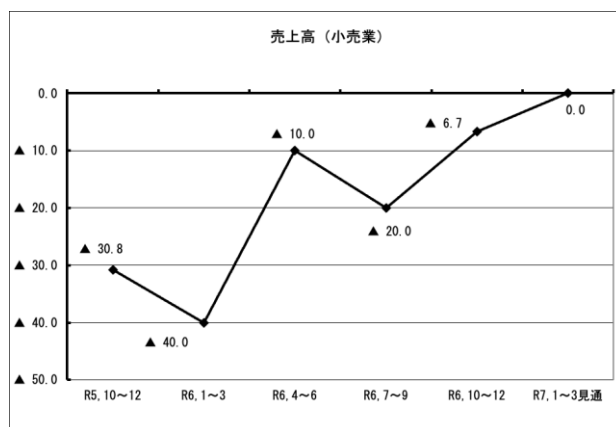
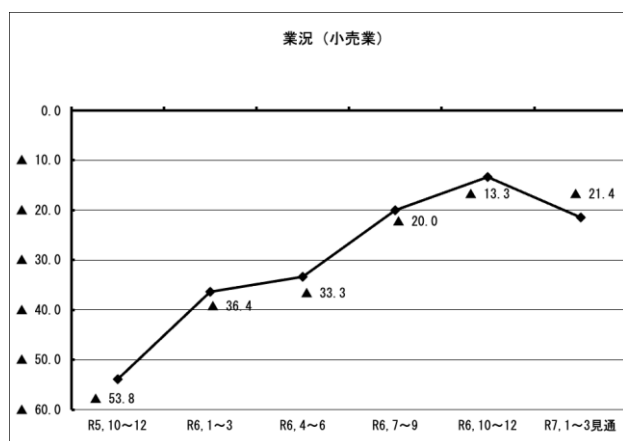
小売業

小売業の業況DIは▲13.3で前回調査に比べて6.7ポイント上昇した。令和6年1月～3月期から上昇が始り1年間上昇し続けたことになる。数値自体は▲13.3と1年間の上昇でもマイナスではあるが、年間で40.5ポイントの上昇で上昇の幅は大きい。令和7年1月～3月期見通しは▲21.4と下げているので先行きには不安があるようである。

売上高DIは▲6.7で前回調査に比べて13.3ポイント上昇した。前回調査で10ポイントの低下だったか今回は逆に13.3ポイントの上昇で過去1年を見ると上昇のトレンドに見える。1月～3月期見通しも0.0とさらに上昇の見通しとなっている。

採算DIは▲33.3で前回調査より3.3ポイント低下した。採算は▲30±10ポイントの範囲内で上下した令和6年であった。令和7年1月～3月期見通しも▲40.0とこの流れのままと予想されている。

資金繰りDIは▲33.3で前回調査より13.3ポイント低下した。前回調査で20ポイントの上昇を見たが、今回は逆に13.3ポイントの低下となり資金繰りは回復基調にないようである。1月～3月期見通しもさらに低下して▲35.7となっている。



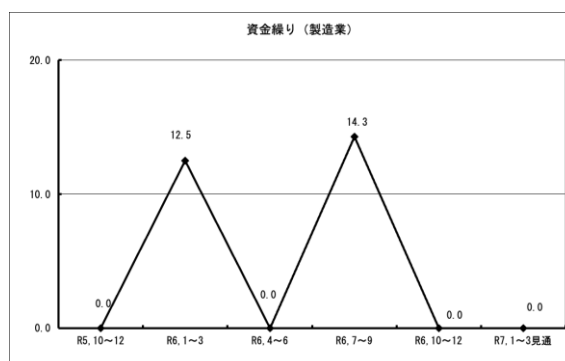
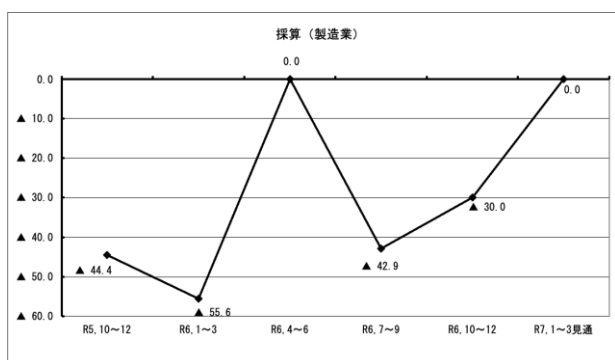
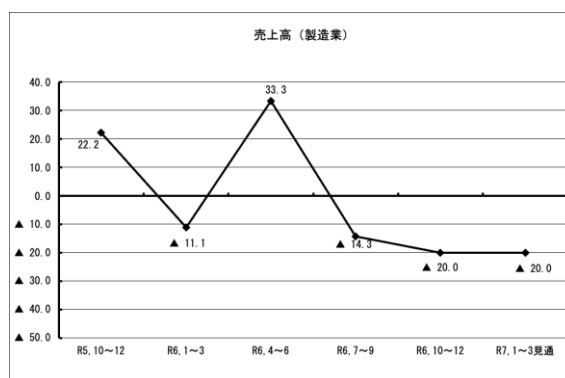
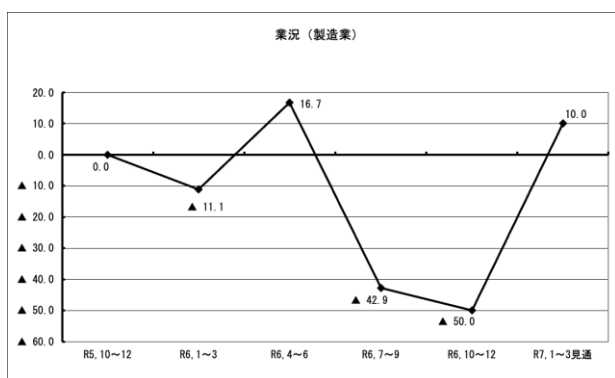
製造業

製造業の業況DIは▲50.0と前回調査の▲42.9から7.1ポイント低下した。前回調査で大きく低下した業況DIは今回調査でもそのポジションをあまり変えなかった。令和6年前半は0.0を挟んでの動きであったが、後半は一転して▲40を下回る急激な変化をした。令和7年1月～3月期見通しは10.0と一気の回復が期待されている。

売上高DIは▲20.0で前回調査と較べて5.7ポイント低下した。令和6年の1年間を見ると4月～6月期は33.3とプラスの数値であるが残りの3四半期はマイナスの数値になっており、売上高はよくなかったという結果になった。令和7年1月～3月期見通しも▲20.0なのでこのペースは変わらないようである。

採算DIは▲30.0で前回調査に比べて12.9ポイント上昇した。採算も売上高と同様の動きを見せており、令和6年4月～6月期が0.0である以外はマイナスの数値であり、採算面でも厳しい1年であったと言える。令和7年1月～3月期見通しは0.0と大きく回復を予想しているので、これからの期待が大きい。

資金繰りDIは0.0で前回調査より14.3ポイント低下した。資金繰りは令和6年1年間でプラス数値が2回、0.0が2回と比較的安定した動きになった。令和7年1月～3月期見通しは0.0であり、安定した動きは続きそうである。



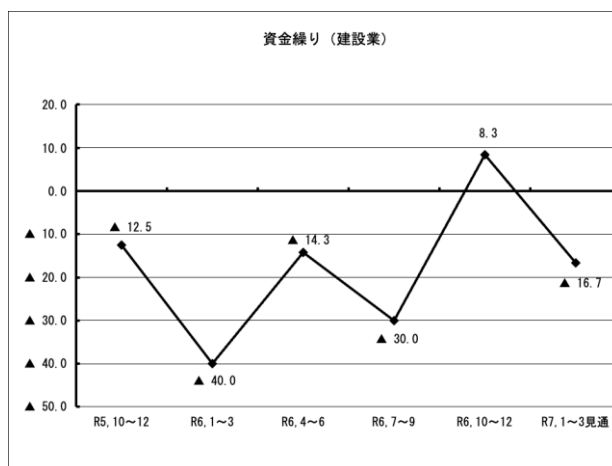
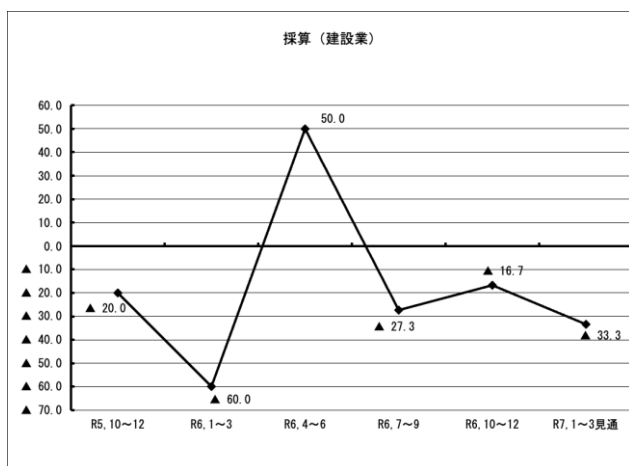
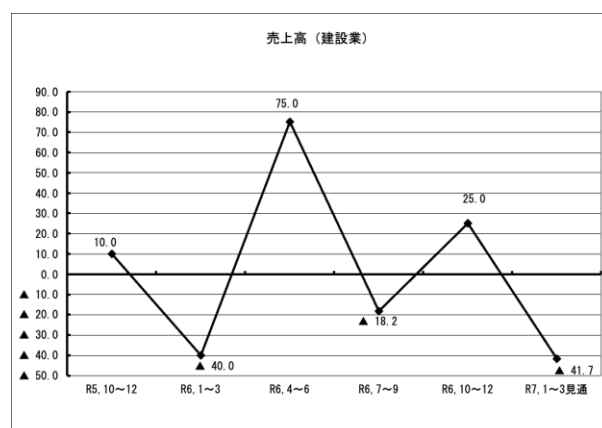
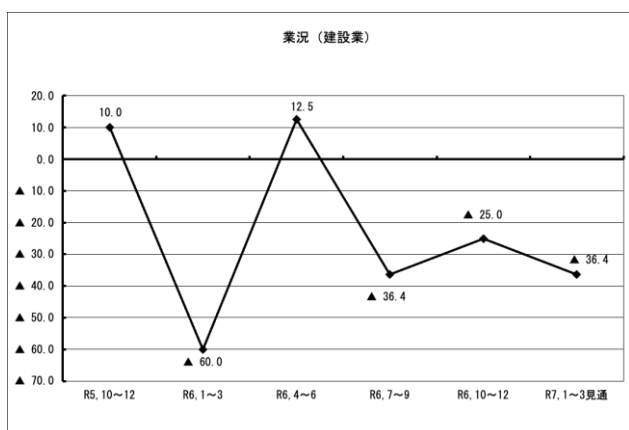
建設業

建設業の業況DIは▲25.0であり前回調査から11.4ポイント上昇した。令和6年1年間では4月～6月期が12.5とプラスの数値であったがそれ以外の3四半期はマイナスの数値であった。ただ、1年前の令和6年1月～3月期の▲60.0からすると数値は上昇している。令和7年1月～3月期見通しは▲36.4であり、この先の上昇は期待されていない。

売上高DIは25.0で前回調査の▲18.2から43.2ポイント上昇した。令和6年を見ると非常に大きな触れ幅の1年であったと言える。令和7年1月～3月期見通しも▲41.7と大幅な低下を予想しており、振れ幅の大きな傾向は変わらないようである。

採算DIは▲16.7で前回調査の▲27.3から10.7ポイントの上昇である。採算面でも令和6年の動きは4月～6月期が大きくプラスの数値になったものの、その他の3四半期はマイナスであり、厳しい1年であったと考えられる。令和7年1月～3月期見通しも▲33.3で回復の見通しは立っていない。

資金繰りDIは8.3で前回調査に比べて38.3ポイント上昇した。令和6年は上下を繰り返しながらトレンドとしては上昇のトレンドを描き、10月～12月期でプラスの数値に達した。令和7年1月～3月期見通しは▲16.7と落ち込む予想がされている。



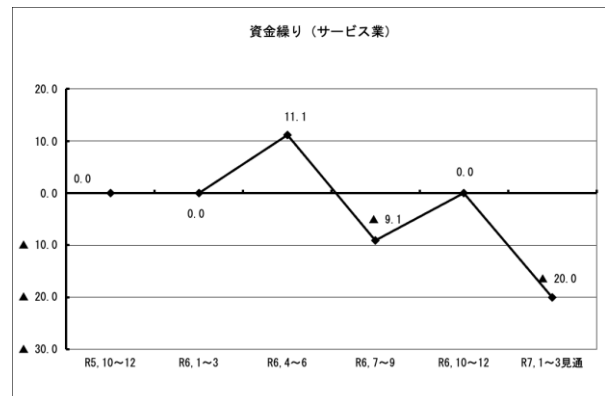
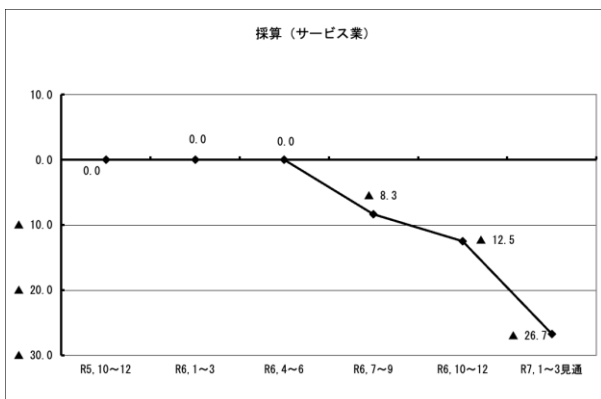
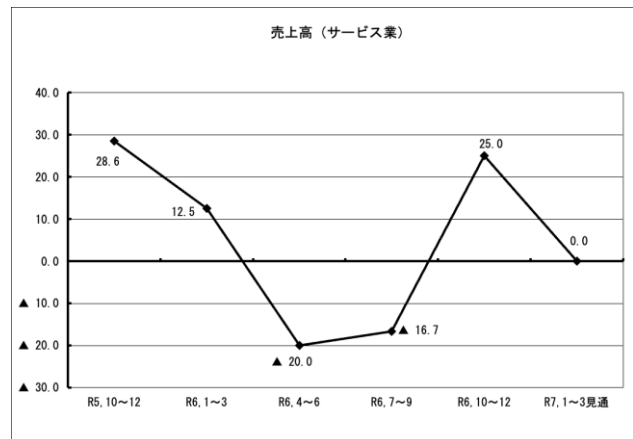
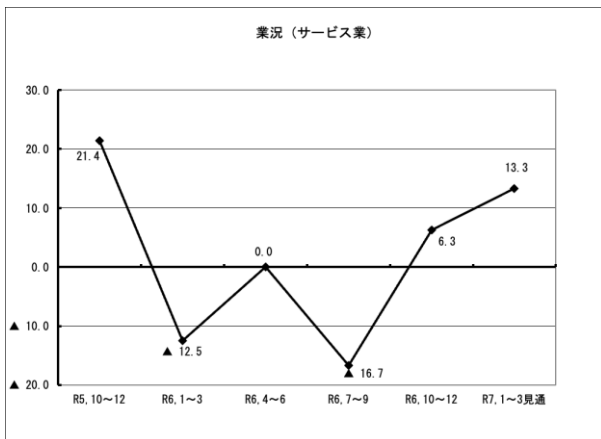
サービス業

サービス業の業況DIは6.3で前回調査に比べて23ポイント上昇した。過去5四半期と見通し1期のグラフを見るとWの形になっており、令和6年の前半3四半期は低位の期間に入っていたようである。令和7年1月～3月期見通しは13.3と今回調査よりさらに上昇しているの明るい予想になっている。

売上高DIは25.0で前回調査より41.7ポイント上昇した。令和6年4月～6月期と7月～9月期が鍋底の状態になっており、1年の半分は厳しい期間であったことが伺える。令和7年1月～3月期見通しは、反転して0.0と低下の見通しになっているので注意する必要があるようである。

採算DIは▲12.5で前回調査より4.2ポイント低下した。2四半期連続低下した。採算は令和6年前半を0.0で乗切ったが後半の6カ月はマイナスに転落し、後半から厳しい状況になってきたと考えられる。令和7年1月～3月期見通しは▲26.7とさらに低下する見通しなので採算面は厳しい状況が続くようである。

資金繰りDIは0.0で前回調査に比べて9.1ポイント上昇した。令和6年を見ると7月～9月期がマイナスである以外はマイナスにはなっておらず、資金繰りは安定した1年であったと思われる。しかし、令和7年1月～3月期が▲20.0と大きく低下しているのこの先は不安が残る。



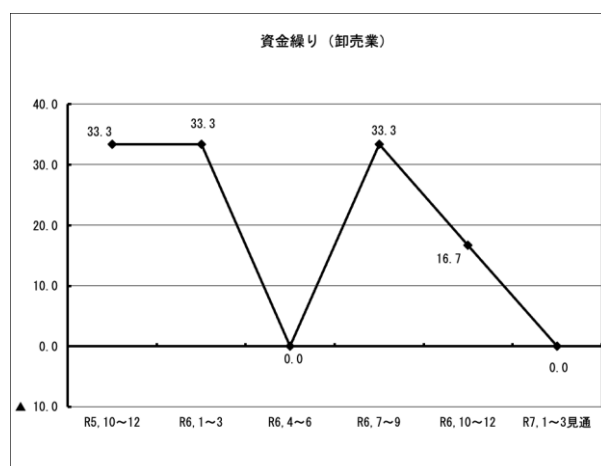
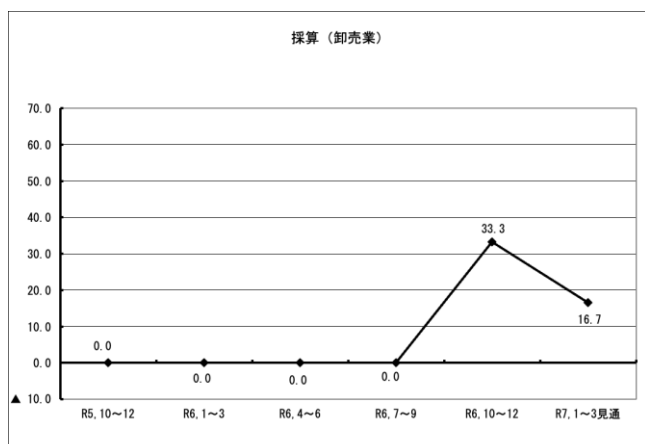
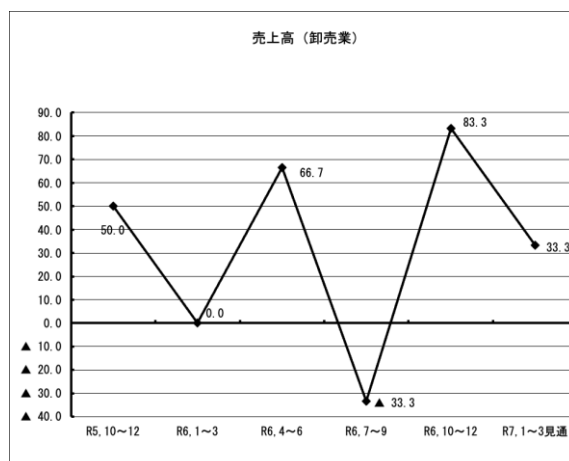
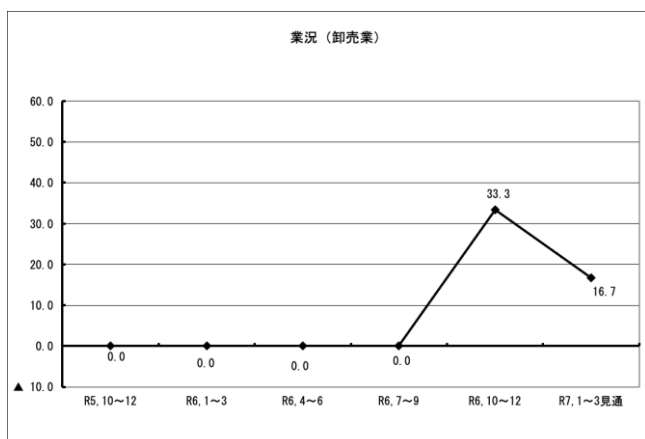
卸売業

卸売業の業況DIは33.3で前回調査に比べて33.3ポイント上昇した。令和5年7月～9月期以来のプラスの数値である。ここまで4四半期連続で0.0であったので、令和6年の最終四半期によりやく業況が好転したようである。令和7年1月～3月期見通しは16.7と今回調査よりも低下しているものの、プラスの数値である。

売上高DIは83.3で前回調査の▲33.3から一気に116.7ポイント上昇した。令和6年を見ると、前回の7月～9月期はマイナスであるがその他の3四半期は0.0以上の数値であり、前回調査期間が特に悪かったと考えることができる。令和7年1月～3月期見通しは33.3で今回調査よりも50ポイント低下するがプラスの数値であるので悪いとは言えない。

採算DIは33.3で前回調査より33.3ポイント上昇した。過去1年を比較すると採算と業況が同じ動きを見せており、最終四半期で採算面でも好転したようである。令和7年1月～3月期見通しは16.7で数値としては悪くない。

DI資金繰りDIは16.7で前回調査より16.6ポイント低下した。過去1年の資金繰りの動向を見ると4月～6月期が0.0でそれ以外はプラスの数値であり、安定した1年であったと思われる。令和7年1月～3月期は0.0で数値は下がるが悪化したとまでは言えない見通しである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 11.9	▲ 5.4	15.3	▲ 8.5	▲ 16.9	▲ 22.4
小売業	▲ 13.3	▲ 21.4	▲ 6.7	0.0	▲ 33.3	▲ 40.0
製造業	▲ 50.0	10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0
建設業	▲ 25.0	▲ 36.4	25.0	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 33.3
サービス業	6.3	13.3	25.0	0.0	▲ 12.5	▲ 26.7
卸売業	33.3	16.7	83.3	33.3	33.3	16.7

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	16.9	13.8	▲ 20.7	▲ 19.0	▲ 8.9	▲ 1.8
小売業	0.0	0.0	▲ 35.7	▲ 35.7	7.7	7.7
製造業	30.0	50.0	▲ 10.0	0.0	▲ 10.0	0.0
建設業	16.7	0.0	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 36.4	▲ 9.1
サービス業	6.3	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 6.7
卸売業	66.7	50.0	50.0	33.3	16.7	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 3.6	▲ 17.9	4.0	2.1	2.0	2.0
小売業	▲ 33.3	▲ 35.7	0.0	10.0	▲ 10.0	0.0
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	8.3	▲ 16.7	0.0	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1
サービス業	0.0	▲ 20.0	7.1	7.1	7.7	14.3
卸売業	16.7	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0

過去からの動向

